

令和元年6月23日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2014～2018

課題番号：26370179

研究課題名（和文）大正期における梅蘭芳訪日公演の研究

研究課題名（英文）Research for the first performance of Mei Lanfang at Taisho era

研究代表者

平林 宣和（Hirabayashi, Norikazu）

早稲田大学・政治経済学術院・教授

研究者番号：40271358

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、1919年に行われた中国の女形俳優梅蘭芳の初訪日公演に関して、当時の新聞雑誌などに掲載された関連資料を悉皆調査すると同時に、梅蘭芳が当時の日本社会に受容されていくプロセスを検証することを課題とした。

関連資料については、日本の新聞雑誌のほか、中国語新聞についても調査し、掲載された資料をデータベース化した。また梅蘭芳の受容については、当時の文化人、知識人とのかかわりを焦点に、初訪日公演以前の両者の接点を調査分析した。

また2019年が初訪日公演百周年に当たるため、当初の計画通り、北京の梅蘭芳記念館との連携によって、2019年1月に北京で、7月に早稲田大学で国際シンポジウムを開催した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今回の研究を通して、現在からおよそ百年前の日本において、梅蘭芳によって代表される中国の演劇がどのように受容されたか、その具体像が明らかになった。同時に、大正期の日本において、中国演劇がどのように表象され、受け入れられていたか、といった問題にも一定の回答を得ることができた。

さらに2019年の梅蘭芳訪日百周年にあたり、北京梅蘭芳記念館と共同で北京及び東京で国際シンポジウムを開催、また上海戯曲芸術センターと共同で、同じく百周年を記念する公演を開催できた。これらを通して、研究成果を日中双方で共有し、また広く一般の人々にも知らしめることができたと考える。

研究成果の概要（英文）： This study researched Mei Lanfang's first visit to Japan in 1919, collected related materials and made it into a database, and verified the process of acceptance of Mei Lanfang in Japanese society.

2019 is the 100th anniversary of Mei Lanfang's first visit to Japan, together with the Mei Lanfang Memorial Hall in Beijing, An international symposium was held in Beijing in January and at Waseda University in July.

研究分野：中国演劇

キーワード：中国演劇 京劇 梅蘭芳 日中文化交流 帝国劇場 大正時代

## 1. 研究開始当初の背景

研究を申請した2013年度当時の研究背景は以下の通りである。

20世紀中国で最も著名な京劇の女形俳優、梅蘭芳が1919年に初めての訪日公演を果たしてから、あと6年で百年という時間が経過する。梅蘭芳はその後1924年と1956年に訪日公演を行っているが、特に大正期における二度の公演は京劇の本格的海外進出の先駆となったこともあり、中国京劇史あるいは日中文化交流史上の重要なトピックとして、たびたび論及の対象となってきた。

しかしながら一方で、20世紀中国を代表する偉人、大芸術家というイメージが先行しているためか、従来その事績については様々な通説が綿密な考証を経ることなく流通しており、その量の膨大さと比較して、研究者による細かな検証作業がこれまで十分に行われてきたとは言えない状態にある。たとえば筆者は近年、大正期の梅蘭芳訪日公演を実現させた立役者である大倉喜八郎が梅蘭芳の芝居を北京で初めて観劇した期日を、当時の資料を用いた考証により1917年11月29日と特定したが、このような極めて基本的な事実も、これまで十分には調査研究されてこなかったのである。

こうした状況が現在十分に改善されたとは言えないが、一方で改革開放政策以来の自由化の進展、また中国の研究者が以前に比べて比較的自由に海外渡航が出来るようになったという時代的な背景から、近年あらためて様々な資料を総合して梅蘭芳の訪日公演を緻密に研究しようという動きが、特に大陸の学者たちの間で目立ち始めた。実際に筆者が籍を置く早稲田大学演劇博物館でも、こうした目的をもった複数の中国人研究者を受け入れており、これら研究者たちが持ち帰った情報が中国内の演劇研究者に共有され始め、それがさらなる研究を促すという相乗的な反応が起こっている。

また2014年がちょうど梅蘭芳生誕120周年に当たるため、特に北京では梅蘭芳に関連する大型資料集の出版やシンポジウムの開催など、様々な活動が繰り広げられる予定である。応募者は以前より中国伝統演劇の近代化を研究対象としてきたが、特にここ数年は業績一覧にある通り民国初期(日本の大正期に重なる)の梅蘭芳の事績を重点的に調査研究してきている。この一連の活動は、上述の中国側の動きとも連動しており、双方の研究者の関心がそれぞれの研究を互いに推進させるという関係になっている。今回の研究計画も現時のこうした流れに乗って立案されたものである。

## 2. 研究の目的

研究開始当初に以下の五つの目的を掲げて研究作業を推進した。

- 梅蘭芳の訪日公演実現に至るまでの日中双方における歴史的経緯
- 東アジア各地域間における梅蘭芳の訪日公演に関する情報の共有状況
- 大正期の日本社会が抱いた中国イメージと梅蘭芳の訪日公演との関連
- 梅蘭芳の訪日公演と同時代の日本をはじめとする国外の舞台芸術との関係
- 梅蘭芳の訪日公演に関する現存資料の網羅的な調査とデータベースの作成

## 3. 研究の方法

研究開始当初に研究方法として掲げたのは以下の五点である。

- 早稲田大学演劇博物館および図書館に所蔵される梅蘭芳訪日公演関連資料のリスト化
- 青木文庫(名大)、濱文庫(九大)など、国内諸機関にある関連資料の収集とリスト化
- 北京梅蘭芳記念館および中国戯曲学院梅蘭芳研究センターとの連携による中国国内所蔵の関連資料の収集とリスト化
- 上記作業を初年度および第二年度に遂行し、その成果を国内外の研究協力者と順次共有、定期的に会合を行って研究を促進させる
- 最終年度に東京あるいは北京で成果報告会を行い、その時点での研究成果を公開する

#### 4. 研究成果

上記研究目的のうち、「梅蘭芳の訪日公演実現に至るまでの日中双方における歴史的経緯」に関しては、梅蘭芳訪日前に中国に滞在していた木下杢太郎、福地信世など当時の知識人、文化人と梅蘭芳の接触状況について調査を行った。次の「東アジア各地域間における梅蘭芳の訪日公演に関する情報の共有状況」に関しては、北京の『順天時報』、台湾の『台湾日日新報』などに掲載された関連資料を収集し、検証を進めた。「大正期の日本社会が抱いた中国イメージと梅蘭芳の訪日公演との関連」については、木下杢太郎の周辺にいた和辻哲郎、弟子の龍居松之助を介して接点のあった伊東忠太などが構想したアジア芸術のイメージと梅蘭芳のかかわりを検証した。「梅蘭芳の訪日公演と同時代の日本をはじめとする国外の舞台芸術との関係」については、松旭斎天勝と梅蘭芳の舞踊の類似を出発点に、梅蘭芳の新作と当時の世界の舞台芸術の潮流との関りを調査した。以上の検証結果は、これまでの年度ごとの報告に記したように、随時個別に学会発表、論文の形で公にしている。

「梅蘭芳の訪日公演に関する現存資料の網羅的な調査とデータベースの作成」は研究方法の1から3に関わるが、リスト化は完結してはいないものの、相当数のデータが集まったため、いずれは早稲田大学演劇博物館のデータベースなど、公のアクセスが可能な形で公開をしたいと考えている。

また研究方法4,5の国内外の研究者との連携と成果報告については、北京の梅蘭芳記念館と共同で、訪日百周年に当たる2019年1月に北京で、同7月に東京で国際シンポジウムを開催、日中双方の研究者で最新の研究成果を共有した。また訪日百周年を記念して2018年10月に早稲田大学で、2019年10月に国立劇場で行われた上海京劇院、上海崑劇団の公演において、研究成果の一部を公開している。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 9件)

- 1 平林 宣和、フラー・天勝・梅蘭芳 - 梅蘭芳『天女散花』と電光の世紀、アジア遊学、査読なし、232、2019、pp. 210-222
- 2 平林 宣和、1919年の梅蘭芳訪日公演と「東洋の美」の発見、中国都市芸能研究会叢・中華圏の伝統芸能と地域社会、査読なし、5、2019、pp. 161-172
- 3 平林 宣和、富勒・天勝・梅蘭芳 - 東亜電光舞與梅蘭芳『天女散花』、地方戯曲和皮影戲 日本学者華人戯曲曲芸論文集、査読なし、2018、pp. 107-122
- 4 平林 宣和、描かれた中国演劇 近代日本人の中国演劇への視線、中国芸術研究院戯曲研究所 編 岡崎由美 / 平林宣和 / 川浩二 監修・翻訳『中国演劇史図鑑』、査読なし、2018、pp. 300-305
- 5 平林 宣和、1919年梅蘭芳訪日之前日人對於京劇的認識與其變遷、黃愛華、李偉編『新潮演劇與中国戲劇的現代性追求』、査読なし、2017、pp. 165-173
- 6 平林 宣和、大正時期日人對於京劇的認識狀況 - 以 1919年梅蘭芳在帝国劇場演出劇目為例(提綱)、梅蘭芳表演体系研究 - 梅蘭芳誕辰 120周年國際學術研討會文集、査読なし、2016、pp. 309-311
- 7 平林 宣和、1919年梅蘭芳訪日演出的“始”與“末” - 古装新戲(天女散花)與大倉喜八郎、梅蘭芳與京劇的傳播、査読なし、2016、pp. 435-443
- 8 平林 宣和、古装新戲與京劇國粹化 - 1910年代京劇的新、旧、古、新潮演劇與新劇的發生、査読なし、2015、pp. 16-29
- 9 平林 宣和、那宅花園における梅蘭芳と大倉喜八郎の邂逅、芸文研究、査読なし、2014、106、pp. 295-305

〔学会発表〕(計 11件)

- 1 平林 宣和、1919年梅蘭芳訪日演出與東方美的發現、紀念梅蘭芳首次訪日演出100周年學術研討會(國際学会)、2019
- 2 平林 宣和、崑劇と日本の百年、講座と上演『崑劇と日本の百年』、2018
- 3 平林 宣和、梅蘭芳古装新戲與與民初上海劇壇 試探民初上海劇壇對於梅蘭芳古装新戲的影響關係、2018 CHINOPERL CONFERENCE(國際学会)、2018
- 4 平林 宣和、梅蘭芳古装新戲與文明戲 試探文明戲對於梅蘭芳古装新戲的影響關係、第四屆清末民初新潮演劇國際學術研討會(國際学会)、2017
- 5 平林 宣和、1919年梅蘭芳訪日之前日人對於京劇的認識與其變遷 - 試探 1917年梅蘭芳與日本社会的首次邂逅 - 、2017 CHINOPERL CONFERENCE(國際学会)、2017
- 6 平林 宣和、梅蘭芳古装新戲與“電光”の世紀 試探梅蘭芳(天女散花)与洛伊・富勒の“電光舞”之關係、梅蘭芳精神及傳播國際學術研討會(國際学会)、2016
- 7 平林 宣和、1919年梅蘭芳訪日之前日人對京劇的認識與變遷、第三回清末民初新潮演劇國際シンポジウム(國際学会)2015

- 8 平林 宣和、梅蘭芳古装新戲與“電光”的世紀 - 試探梅蘭芳(天女散花)與洛伊·富勒的“電光舞”、2016 CHINOPERL Conference(國際学会)、2016
- 9 平林 宣和、梅蘭芳與大正時期的日本 - 京劇第二傳統和大正時期日本的“支那劇”形象 - 、武漢大學哲學院(招待講演)、2015
- 10 平林 宣和、梅蘭芳と日本の95年 - 梅蘭芳初訪日公演(1919)から現在まで - 、梅蘭芳生誕120周年記念講演会(招待講演)、2014
- 11 平林 宣和、大正時期日人對於京劇的認識狀況 - 以 1919 年梅蘭芳在帝國劇場演出劇目為例、梅蘭芳表演體系國際學術研討會、2014

〔圖書〕(計 1 件)

- 1 中国芸術研究院戯曲研究所 編 岡崎由美 / 平林宣和 / 川浩二 監修・翻訳、国書刊行会、『中国演劇史図鑑』、2018、326

## 6 . 研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名：無

### (2)研究協力者

研究協力者氏名：無

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。